

平成24年度 公益財団法人大阪市博物館協会の事業評価

東洋陶磁美術館の運営状況（総括）【シート3】

| H23年度を中心とする指定管理期間の自己評価 |              |   | 外部評価 << 委員コメント総括 >>  |
|------------------------|--------------|---|--|
| 事業区分                   | 重点目標         | 詳細  |  |
| 1 資料の収集、保存、活用          | 資料の収集        | 寄贈受入の推進：<br>合計70件1,281点(評価額約6,500万円)<br>目標を十分達成できた。ただし、購入予算は市の財政状況により10年近く凍結されており、美術館としての計画的な資料収集が困難な状況になっている。  | <p>・購入予算ゼロという制約の下で、寄贈受入れによりコレクション増が達成できていることは館外からその事業の活動が高く評価され、美術館への信頼を獲得していることの現れであろう。しかし今は収集の好期であり、計画的に収集を進める環境作りが必要であろう。</p> <p>・館蔵資料の館外貸出し、国内外の美術館との共催展示は評価できる。特に海外での共催巡回展は意欲的な取組であり、日本文化の紹介や交流という観点からも、今後も積極的に取り組んでほしい。東洋陶磁美術館のように小規模ではあるが、優品からなるコレクションを持つ館では、館とコレクションのブランド化を押し進めていくことが重要である。貸出しに当たってはブランド価値を高めるよう貸出先を選ぶことも必要であろう。寄贈品を活用した特別展「浅川巧生誕百二十年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美—」(23年度)の美術館連絡協議会でのダブル受賞は、美術館の企画力・研究能力が高く評価された証拠である。</p> <p>・免震装置の全館導入は陶磁専門館にとって必要不可欠のことであり、時間がかかったことは問題としても、評価できる。外部監査でも問題が指摘されている地下収蔵庫の整備は、引き続き、施設設置者(大阪市)と折衝してほしい。施設設置者には、収蔵資料の評価額に見合う収蔵庫整備を行うことを強く要望したい。東洋陶磁美術館は川に隣接している館であるので、資料の防災対策上、水害の危険性から地下収蔵庫が望ましいかどうかは十分検討し、必要な措置を早急に行ってほしい。</p> <p>・大阪市の財政が極めて厳しいことは周知のことではあるが、美術館・博物館はコレクション形成上購入が是非必要なものに遭遇することも数多くある。大阪市においては、購入予算なしという前提で全て進めるのではなく、美術館・博物館から購入希望を聴いて、個々の案件毎に判断するシステムの導入を是非検討してほしい。</p> |
|                        | 資料の活用        | 館蔵品の国内外での共催展示や長期貸出：<br>・中国6会場での館蔵伊万里作品(160点)による共催巡回展の開催(甘肅省博物館、北京芸術博物館、遼寧省博物館、大連現代博物館、廈門市博物館、内蒙古博物院)<br>・ドイツ国立東アジア美術館での韓国陶磁作品の長期貸出<br>・「浅川巧生誕百二十年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼 朝鮮時代の美」の国内巡回開催(当館、千葉市美術館、山梨県立美術館)<br>目標を十分達成できた。豊富で質の高い館蔵品を活用した館外での共催展覧会や長期貸出は直接的に館の入館者増にはすぐに結び付かないかもしれないが、当館とコレクションを広くアピールする上で極めて効果的といえる。また、限られたキャパシティの当館にとって、館外でのこうした共催展覧会は独自のコレクションと企画力を有する専門館としての独自性の一つとして今後の重要な活動の一つとなるものといえる。また、浅川展は寄贈品を活用、研究成果を反映したもので、本展を通してさらに新たな寄贈にもつながるなど理想的な形で展示であり、なおかつ展覧会の意義も国内外で高く評価された(美連協大賞、論文賞のダブル受賞)。 |  |
|                        | 資料の保存        | ①免震装置の導入：<br>これまで順次進めてきた免震装置の全館導入が本年度ようやく完了し、目標を達成できた。これにより、陶磁専門美術館としての展示品の安全を最大限守るという使命を果たすことができるとともに、独自の仕様の免震装置により、効果的な展示が可能となった。<br>②地下収蔵庫の整備：<br>市当局の予算措置なし。外部監査でも指摘された(H21)収蔵スペース確保のための地下収蔵庫の整備は目標達成できず。寄贈により年々増加するコレクションを安全かつ効率的に保管するためにも地下収蔵庫の整備(既存の倉庫の収蔵庫仕様化)は引き続き要求をしていきたい。  |  |
| 2 調査・研究                | 館蔵品に関する調査研究  | 李秉昌博士記念韓国陶磁研究：<br>・「中・後期高麗青磁の研究」(H23～):国際交流企画展「碧緑の華—龍泉大窯楓洞岩窯址発掘成果展」、李秉昌博士記念公開講座「高麗“象嵌青磁”の魅力をさぐる」の開催、『李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告V』の刊行など<br>目標を十分達成できた。  | <p>・収蔵品に関する調査研究が目標どおり達成できたことを高く評価する。美術館が行っている調査研究活動の概要、研究成果についてHPに独立したサイトを設けて、社会に向けて情報発信してほしい。研究機能を持つ施設であることをもっとアピールしてもよいのではないか。研究成果の社会への還元の意味からも、最低限、学芸員名や公表した論文、刊行物名などは公表し、幅広い層からの研究情報へのアクセスを保障することを要望する。</p> <p>・学芸員数が少ない中で、科学研究費補助金の獲得に高い成果を上げている。研究なしに、充実した展示や教育普及活動はできないから、研究活動を積極的に進めてほしい。科学研究費補助金による研究等の実施状況についても美術館のHPで情報発信してほしい。人員の不足については大阪市博物館協会所属の各館の共通課題として解決に向けて取り組むことを要望する。</p> <p>・東洋陶磁研究の国際拠点化というのは、東洋陶磁美術館のコンセプトとしても極めて適切なものである。館のHPにおいて掲げている「世界における東洋陶磁の研究拠点」という目標について、館の取組状況をHPに掲載することを要望する。</p>  |
|                        | 東洋陶磁に関する調査研究 | 科学研究費補助金の獲得：<br>基盤研究(B)海外1件、基盤研究(C)1件、若手研究(B)1件を獲得した<br>目標を十分達成できた。当館では平成15年に科学研究費補助金申請可能な研究機関に認定されて以降、毎年コンスタントに高い割合で科学研究費補助金を獲得しており、館蔵品にも関わることが多いそれらの研究成果は、直接的ないし間接的に展覧会の開催や展示、各種教育普及活動にも反映されている。  |  |
|                        | 東洋陶磁研究の国際拠点化 | 国内外の美術館、博物館、研究機関等との学術交流：<br>欧米、アジアや国内の博物館、美術館、研究機関との学術交流(相互の調査受け入れ、展覧会やシンポジウム、講座などの開催、図書交換、展覧会の共催や協力、作品貸出など)<br>目標を十分達成できた。   |  |
| 3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス | 展示解説の充実      | 分かりやすく読みやすい解説文の導入：<br>特別展、企画展、特集展、常設展の一部に導入し、アンケートなどで好評であった。<br>目標をほぼ達成できた。読みやすい文字とデザインを目標にこれまで様々な実験的導入を進めており、アンケートなどにより来館者の反応を踏まえ、さらに当館にふさわしい解説文のあり方を目指したい。  | <p>・「読みやすい文字とデザイン」を目標に展示解説の改善充実に取り組んでいることを評価する。内容も作品鑑賞を主眼に据えたシンプルな解説で館全体の雰囲気にもマッチしている。特集展の「人間国宝 濱田庄司の茶碗—堀尾幹雄コレクション」展(24年度)では、展示ケースの隅に対応する図録の案内がある等、よく工夫されている。</p> <p>・今後は、美術館のコレクションや調査研究成果をフルに発揮した展覧会と、幅広い層にやきものへの関心を高めるおしゃれ感覚満載の展覧会を開催することで、陶磁ファンの聖地になってほしい。「浅川巧生誕百二十年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美—展」(23年度)は、館蔵品も生かしつつ、これまであまり知られてこなかった日朝間の交流史を掘り起こす仕事で近年では出色の企画で、東洋陶磁美術館の特性が十二分に発揮されていた。</p> <p>・常設展(平常展)において、学芸員やボランティア解説員が適宜説明をされていることは素晴らしいサービスである。特別展では監視員は必須なのであるが、機械監視と組み合わせ、より良好な展示環境を作れる</p>  |
|                        | 特色ある展覧会の開催   | 調査研究成果を反映した展覧会の開催：<br>・「浅川巧生誕百二十年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼 朝鮮時代の美」の開催<br>・国際交流企画展「碧緑の華—龍泉大窯楓洞岩窯址発掘成果展」の開催<br>目標を十分達成できた。陶磁専門美術館として館蔵品にも関連したオリジナル企画の展覧会を開催し、高い評価を得ることができた。   |  |



|                               |                          |   |  |
|-------------------------------|--------------------------|---|--|
|                               | <b>展示環境の維持と来館者対応の充実</b>  | 特別展における看視員の配備：<br>展示室に看視員を配置することにより、展示環境の維持と来館者への迅速な対応が可能になった。目標をほぼ達成できた。予算の関係で十分な人数の配備ができなかったが、今後は年間契約などの工夫をしながら、特別展に限らず更なる展示環境の維持と迅速な来館者対応を充実できるようにしたい。   | のではないだろうか。東洋陶磁専門館として、他の大規模館と区別されるが、専門館としては決して小さくないと思われる。全部の展示作品を一度に見ようとすると結構疲れるし、途中での休憩施設も決して十分とは言えない。当日再入館者やリピート来館者に対する優遇も必要ではないか。<br>・LED照明の導入、展示台クロスの貼り替えでケース内の展示環境が改善されたことを高く評価する。展示作品の理解を促進する上では、HPでの「施設のみどころ」紹介やビデオ上映による作品紹介、また、学童、高齢者、ハンディキャップをもつ人、外国人等に対する対応等きめ細かい配慮が望まれる。   |
|                               | <b>展示作品の理解促進</b>         | ①LED照明の導入：<br>展示室(10室)全てに自然光に近い最新のLED照明を導入し、陶磁器の鑑賞において効果的な展示ができるようになり、目標を十分に達成できた。<br>②展示台クロスの貼替え：<br>新規の照明にあわせて展示台(免震台)のクロスを貼替え、ケース内の美観を整え、目標を十分に達成できた。<br>新たなLED照明は当館の特色である自然採光展示をモデルとしたもので、自然光に近い最新のLED照明により、陶磁器本来の色や質感を鑑賞できる効果的な展示が可能となった。  |  |
| <b>4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア</b> | <b>東洋陶磁に関する理解促進、情報発信</b> | 講演会、講座、レクチャー、研究会、シンポジウム等の実施：<br>講演会4回、講座4回、レクチャー4回、みどころ解説10回などを実施して東洋陶磁に関する情報発信を行った(参加765人)。<br>展覧会の内容・規模にあわせて実施するため、毎年度の数値が異なり増減の比較は不可。人員数が少ないため、毎回の対応には限界を感じている。また、施設規模の制約から館外の会場を使用する場合もあり、経費、利便性などの問題も多い。<br>当館の活動及び東洋陶磁への理解促進を図るための、友の会事業の実施：<br>・随時会員を募集し、規模の拡大を目指した。<br>・講演会(2回)、研究会(1回)、「友の会通信」(4回)等による情報発信<br>3ヶ月休館の影響により会員数が前年度の約16%減となったが、24年度については前年度比約17%増と回復している。<br>館蔵品展示への理解促進を図るためのボランティアによるギャラリー・ガイドの実施：<br>・常設展、企画展会期中の定刻ガイド(土・日・祝の午前、午後各1回) 37回1,283人<br>・団体見学者(申込制) 29回243人<br>・ボランティア・ガイドへは展覧会ごとに(特別展含む)学芸員による研修を行った。<br>3ヶ月休館の影響により実施件数・参加者は前年度の約47%減。24年度については定刻ガイド53回1,361人、団体ガイド22回251人(12月27日現在)。  | ・講演会、講座等、企画の内容が洗練され、ファンの要望によく応えている。少人数のスタッフで多彩な活動を続けていることを考慮すれば、事業の回数を増やすことより、良質の講演会等を丁寧に行うことに力点を置くことが重要である。また、今や作品を見るだけでなく、その価値を正確に理解することも大事なのでビデオに集録して随時見てもらう工夫を引き続き進められたい。<br>・東洋陶磁の愛好者は、いくつかのタイプに分けられる。そこで、「友の会」の定義を明確にして対応することが重要なのではないだろうか。①リピーターの性格が強い人々、②友の会独自の活動を求める人々、③サポーターとして館の活動を支援したい人々、その各々について求めるものが違うと思われるので、その要求に見合った会費、サービスを設定することが必要である。<br>・東洋陶磁美術館のボランティアによるギャラリーガイドの質が高い。知識量・話し方・熱意のいずれもが傑出している。今後も、ボランティアへの十分な支援を継続してほしい。外国語による説明のできるボランティアガイドの皆さんに参加いただければ、より活動が高まるのではないかと。 |
| <b>5 学校等との利用促進、学校教育支援</b>     | <b>大学との連携</b>            | 博物館実習課程での展示見学、施設見学を随時受入、要望にあわせてレクチャーなどの対応をした。   | ・現在、大学を対象としたキャンパスメンバーズ制度は特定学校を対象とした割引制度を指していると言っている。東洋陶磁に関心の深い学生を支援する意味で一定の役割は果たしていると思われる。現状の学芸員数で、多くの実習生や施設見学を受け入れることは不可能だろう。無理のない範囲で実施していただきたい。現状では、大学との連携は、研究面で強化すればよいのではないかと。  |
| <b>6 広報・宣伝、情報公開と発信</b>        | <b>効果的な広報活動の実施</b>       | 各種ツールを利用した情報発信、宣伝：<br>・HP、各種印刷物、紙誌面広告、マス・メディアなどによる情報発信に努めた。<br>・年間展示スケジュールを前年度末に作成しメディア関係者に発送、通年の展覧会予定を告知、掲載・取材などの事前の宣伝に努めた。館内を始め諸施設に設置、HPとも連動させるなど市民への告知ツールともした。<br>マンパワーの不足で展覧会担当者が発送作業等をする場合もあり、作業日程の遅れが恒常的な問題である。年間の展覧会予定について事前に問合せを受けるなど、一定の効果があった。<br>周辺地域及び観光関連業界との広報連携：<br>・中之島内の各種文化施設、地域活性化事業との広報連携(ポスター、チラシ、割引券などの相互設置)、ガイドマップ作成等への協賛<br>・西天満、北浜、淀屋橋地域活性化事業との広報連携(ポスター、チラシ、割引券などの相互設置)、印刷物への情報提供<br>・京阪電車との提携(京都方面駅でのポスター常時掲出、沿線施設としての優先紹介等)<br>・旅行代理店等観光関連業界への情報発信などにより周辺地域への情報発信に努めた。<br>中之島散策、リバークルーズなどと結びつけた入館者の取り込みなどに結びつき、一定の効果があった。施設規模の制約、館の特性と団体客の取り込みの適合性については、検討の必要がある。<br>アンケートの実施によるニーズの把握：<br>・展覧会毎に入館者に対しアンケートを実施、動向、反応を把握した。重点地域・弱点地域などを分析し、ポスター掲出、チラシ配布先選定などの広報計画に動向データを役立てた。<br>・リリース発送先などに定期的にアンケートを実施し、ポスター、チラシの発送・配布内訳などの要望を把握してきめ細かい対応をとり、広報活動を掲出・掲載に直結させることができた。<br>いずれもマンパワーの不足で作業日程が遅れ気味であった。恒常的な問題であり、臨時的な人員確保、外部への業務委託など、根本的な対策を講じる必要がある。 | ・アンケートを実施して広報戦略を立案していることを評価する。また、年間スケジュールを前年度に作成してメディア等にタイムリーに配布していることもなかなかできないことで評価できる。その他にも、周辺地域や観光関連業界に対して事務方も含め幅広く広報活動を日常的に行っていることも評価できる。美術館の要員等の態勢から見て、インターネットの活用、陶磁ネットワークの活用、中之島ブランド化のための諸活動への参加等を通して認知度を高め、また、大阪市博物館協会全体の広報活動として取り組むことによりPRを充実していくことを要望する。  |



|  |                                 |  |   |
|--|---------------------------------|--|---|
| 7 地域、市民、<br>関連機関との連<br>携・交流              | 他の博物館等との<br>連携                  | 国内外の美術館、博物館、研究機関等との連携による共同研究、展覧会の共催、講演会等の開催：<br>・「明代龍泉窯青磁」の出土成果展の企画・共催<br>・「浅川伯教・巧兄弟の心と眼」の企画・共催<br>目標を達成できた。とくに浅川展は美連協大賞、論文賞のダブル受賞を果たし、国内外で高い評価を得た。  | ・共同研究、展覧会共催で他館との連携がうまくいっていることを評価する。<br>・光のルネサンス事業については、問題点・課題をよく整理し、実行委員会との交渉は、美術館の事務管理系部署や大阪市博物館協会から行うことが重要である。中之島という立地を生かし、日常的に周辺のカフェ・レストラン等との連携を行ってはどうか。おしゃれな店が多く、来館の前後に立ち寄る人も多いと思われるため、散策コースを提案し、何度も中之島地区を訪れたくなる仕組みを共同開発してはどうか。近年、中之島の近隣の老松町にアート街が形成されて来ている。これらの地区との連携も考えても良いのではないかな。   |
|  | 関連機関との連携                        | 「光のルネサンス」期間にあわせたライトアップ事業：<br>館蔵品をイメージした照明装置を作製設置して、玄関前スペースで光のパフォーマンスを実施した。目標を一応達成できた。現状の照明装置の開発などは学芸員が立案しており、アピール・動員などの効果については限界を感じる。周辺環境との一層の連携を目指し館の周知に結び付けるためにも、ルネサンス実行委員会からの技術的、予算的協力が望まれる。  |   |
| 8 施設の整備、<br>維持管理、リスク<br>マネジメント           | 施設・設備の良好<br>な維持管理               | 設備等の運転、監視及び保安：<br>専門技術者等による日常点検、法定点検、定期点検等により、不具合の未然防止及び正常稼働に努めた。<br>目標を十分達成できた。   | ・施設の整備、維持管理については現在ちょうど一連の計画が完了したところでメンテナンスがきちんと行われている。<br>・地震対策についてハード面での大きな前進があったことは評価できる。ソフト面についても点検し、必要な措置を講じてほしい。   |
|  | リスクマネーメン<br>ト                   | 地震対策： 展示ケース内への免震台の設置<br>全館設置を完了し、目標を十分達成できた。   |   |
| 9 運営・マネー<br>ジメント                         | 利用者拡大とイ<br>メージアップ               | 「光のルネサンス」期間の夜間・月曜開館：<br>「光のルネサンス」期間(約2週間)に無休、19時まで開館した。<br>イベント来場者と客層が異なり、入館者増には結び付かなかった(24年度は月曜休館、19時まで開館)。来館者サービスとしてのニーズはあるが、コスト面での実施の妥当性は検討の余地あり。<br><br>魅力ある展覧会と広報戦略：<br>浅川展、龍泉窯展などの開催と国際的情報発信、魅力あるデザインの広報戦略<br>目標を十分に達成できた。当館が積極的に企画に関わった陶磁専門美術館として相応しい魅力ある展覧会を開催するとともに、HPの4カ国語での情報発信や海外メディアでの紹介、そして魅力あるデザインのポスター、チラシによる広報戦略などにより、少ない広報予算の中で最大限の効果が上がるような工夫をした。 | ・小規模館で特色のある、きらりと光る展覧会を行っている東洋陶磁美術館は、ターゲットを絞った広報により、口コミによる相乗効果を作り、詳しい情報は美術館のHPでフォローする仕組みをつくることが重要である。最近開催された展覧会での経験を踏まえ、更に広報を充実させてほしい。効果がはかばかしくなかった取組については、無理に固執する必要はなく、他の方法を考えた方が生産的だろう。HPでの4か国語発信は、評価できる。なお一層の、HPの情報発信を工夫してほしい。利用者拡大については試行錯誤の状態にあるとみられるが、現時点の館の位置は非常に優位な位置にあると思われるので、より高いところを目指してほしい。<br>・他館等との協働による展覧会企画は、今後も充実してほしい。「浅川伯教・巧兄弟の心と眼―朝鮮時代の美―展」のように、東洋陶磁美術館が主導する展覧会の開催を期待する。巡回展の共同企画・実施で効率化を達成したことを評価する。  |
|  | 効率的運営                           | 巡回展による特別展運営の効率化：<br>山梨県立美術館他との特別展の共同企画・実施<br>目標を十分達成できた。美連協と加盟館(千葉市美術館、山梨県立美術館、栃木県立美術館)で共同企画・実施をすることで、作品借用や図録制作をはじめとした展覧会運営の効率化が図れた。   |   |
| 10 α<br>※各館の特性が<br>できるように、この<br>項目を活用する。 | 大阪の迎賓館的<br>役割の文化施設              | 都会のオアシスの美術館：<br>水都大阪の象徴ともいえる緑あふれる文化施設の多い中之島の地で、ゆっくりと名品にふれあう静かな時を過ごせる贅沢な空間の提供<br>京阪中之島線や中之島公園の整備により、周辺環境が向上したのに伴い、周囲に溶け込みゆったりと陶磁器の名品を鑑賞できる当館は全国、海外からも来館者があり、国内外のVIP来賓の機会も多い。引き続き快適でゆったりと作品に向き合える美術館としての整備に努める。  | ・東洋陶磁美術館のように、市内の中心地にあり、優れたコレクションを持っている美術館は、館のブランド化が極めて重要である。館の全てについて品質管理を徹底し、やや長期的な時間軸で館の魅力を伝えていくことが重要である。大阪の迎賓館として機能させるためには、文化愛好者だけではなく、財界や政界関係者にもファン層を広げていくことも重要である。館のHPに掲載されている「当館について 基本理念と使命」は、館の理念と使命を的確に表現している。博物館の使命等を簡潔に表示する場合のひな形になるものである。公立館の場合には、館長以下、スタッフの氏名等を表示しない館が多いが、ブランド化する中では、館長や学芸スタッフの顔が見えるようにすることも重要である。<br>・効率的な運営を図る領域と手間暇をかけて育てる領域を明確にして対応することが望まれる。展覧会の企画等は、それを企画運営する人材の質に依拠するものである。職員採用の在り方、人材育成は、大阪市博物館協会全体の問題として検討が必要な重要な課題である。効率的運営はよく達成できているが、これは逆に一人でも欠けると館運営にただちに支障をきたすことを意味する。また、ノウハウの蓄積、継承の観点からも、施設設置者(大阪市)はスタッフの充実に努めることを強く要望する。大阪市博物館協会全体として運営をサポートすることにより効率的な運営はより進展すると思われる。<br>・財団統合のメリットを生かすべく、現在一番困っている特別展の際の広報業務に、大阪市博物館協会事務局(総務部)が支援することが望まれる。また、予算上の制約を考えると、オンライン上の発信にもっと力を入れることが重要である。<br>・ミュージアムショップやカフェ等が美術館にとって極めて重要な施設であり、館にとってその充実が大きな課題になっている。残念ながら、大阪市博物館協会に属する館の施設は、大都市大阪に相応しいとは言えない状況にある。ミュージアムショップやカフェ等の場所を「目的外使用」として貸し出す方式は、手続きの煩雑さや料金の高さからショップ経営にとって大きなネックになっているケースが見られる。使用料収入をあげるための方策が、民間の活力をそぎ、ミュージアムショップやカフェ等の活性化を阻んでいるのであれば、制度面の改善が必要である。大阪市博物館協会と施設設置者(大阪市)で検討することを期待したい。ショップやカフェについては、狭義の美術館運営と切り分けて共同受託するケースもあり、次期の指定管理に向けて検討を期待する。東京都や横浜市の事例などを調査し、改善に向けて努力してほしい。<br>・中之島地区の整備に伴い、美術館付近にカフェ等の施設が設置されてきた。東洋陶磁美術館の喫茶店の利用実態を十分把握し、今後の在り方を十分検討することが期待される。喫茶店の場所は美術館の入口に位置する屋根付エントランス施設として整備し、美術館と一体となって中之島の雰囲気を上向きさせる存在とすることも考えられる。 |
|  | 効率的運営                           | 少人数による効率的運営：<br>学芸、総務とも少人数により、単独の美術館としての活動全般を効率的に実施し、国内外で陶磁専門美術館として高く評価されるようになった。<br>目標を十分達成できたが、指定管理者制度の導入などにより正規職員の新規採用が難しくなったこと、経験やノウハウの蓄積、継承をはじめ将来的な懸案事項となっている。また、業務内容の拡充にとともに、人員不足が恒常的な問題として存在する。   |   |
|  | 財団統合による効<br>果                   | 広報活動の連携：<br>ミュージアムウィークスや広報連携を通して、単館での広報力の限界をカバーする。<br>目標をほぼ達成できた。しかし、予算の関係で広報範囲が限定されるなど、全国的な広報発信やミュージアム総体としての広報・イメージ戦略には課題を残した。  |   |
|  | 利用者サービスと<br>快適なミュージア<br>ムとしての整備 | 魅力あるミュージアムショップと喫茶の整備：<br>・展覧会や館蔵品に関連するグッズや書籍などを販売するショップの整備<br>・観覧者が気軽にくつろげる喫茶の整備<br>ショップについて、目標はほぼ達成できたといえるが、スペースが狭く、また特別展や一部の企画展に限定された臨時のものにとどまった。恒常的な専用スペースの確保や目的外使用料、グッズ製作の事務手続きなどの制約が、魅力あるショップやグッズの整備においては大きな課題となっている。<br>また、喫茶について、目標はほぼ達成できたといえるが、陶磁器専門美術館にふさわしい独自で魅力ある喫茶の整備に向けてさらに検討の余地がある。こちらについても業者選定法や契約期間、目的外使用料などの制約が課題である。                              |   |